

2023年 3月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時～正午)

- 3月 5日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会：武井 陽一
聖書講話：マルコによる福音書 14章12～25節
「最後の晩餐(2) - ユダのいる風景」 水戸 潔

- 3月12日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会：溝口 春江 感話：大屋 智代
聖書講話：ルカによる福音書 2章25～32節
「老いと病の中で」 岩田 堯

- 3月26日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会：永井 徹 感話：大手 美千代
聖書講話：ヨハネ黙示録 1章
「私はアルファであり、オメガである」 武井 陽一

人はみな罪人であり頑固である

溝口 正

私は自分を省みて道端、石地、茨のすべてに当てはまる人間であった。どこからみても「よい地」は全くなかった。しかるに五七年前の、あの神の審判の(敗戦)によって、皇国史観に凝り固まっていた石地(心)が粉微塵に打ち砕かれ生きる望を失った。そこへイエスさまが来臨されて「子よ、心安かれ、汝の罪赦されたり」と告げてくださった。その時以来、私はキリストを受け入れる者とされ神の民の一人に加えられた。思えば私たち日本人は生れつき天の秘密を知らぬ外の人間である。頑迷で罪深い人間である。そのかたくなな日本人の心を神がひとりひとり時を選んで打ち砕き、悔改めに導いてイエスを救主と仰ぐキリスト者としてくださるのである。これは人間業でできることではない。神の奇跡である。

その奇跡に与った人々よ、今こそ十字架、復活の恵みと喜びと感謝とを「外の人々」に証言しようではないか。ここにのみ救いがあり、天の国への道がある…と。(2003年7月「復活」第438号)

枯れて死んだ種の復活

「種まきのたとえ話」を読んで

溝口 正

「たとえ話」を学んだわたくしに 思わぬ天からの閃(ひらめ)きがありました。
「神の言(ことば)は永遠に残る」と

発芽せずに枯れた種も 鳥の胃袋に入った種も 覆われて発芽しなかった種も
いつの日にか芽を出し、すくすくと成長し よき地に落ちた種のように
百倍の実を結ぶときが来るにちがいないと…。

復活であり命である主の播かれた種だから

必ずよみがえることを私は信じる

その日を信じて 焦らずに、休まずに 種まきに いそしみ励もう

神の言葉はとこしえに残るのだから… (2003年6月「復活」第437号)